

熊野古道・番外編3

2013.4.10 ~ 13

熊野古道ではないが、小辺路へと続く高野山町石道は外せない道。

そこで、町石道と高野山散策の旅。

4月10日

平針	17:08	
		地下鉄鶴舞線
伏見	17:30	
	17:35	地下鉄東山線
名古屋	17:38	
	18:00	近鉄アーバンライナー
大阪難波	20:08	

ル・ボテジュール難波 泊

4月11日

南海難波	6:00	
		南海電鉄高野線
九度山	7:04	
	↓	11日午前 12.2km
上古沢	12:18	
		南海電鉄高野線
極楽橋	12:33	
	12:40	高野山ケーブル
高野山	12:45	
	12:50	南海バス
女人堂	12:58	
	↓	11日午後 5.2km
宿坊「一乗院」		

4月12日

千手院橋	8:15	
		南海バス
高野山	8:26	
	8:41	高野山ケーブル
極楽橋	8:46	
	8:53	南海電鉄高野線
上古沢	9:08	
	↓	12日 19.8km
宿坊「一乗院」		

4月13日

宿坊「一乗院」		↓	13日 4.7km
奥の院	12:38		
		南海バス	
高野山	13:00		
	13:08	高野山ケーブル	
極楽橋	13:23		
	12:28	特急高野8号	
南海難波	14:50		
大阪難波	16:00		
		近鉄アーバンライナー	
名古屋	18:08		



四月十一日AM



①7:40 九度山駅



②7:30 慈尊院



③7:37 最初の町石 (180)



⑤8:12 展望台



④7:39 丹生神社



東屋は壊れたまま



⑥8:30 榎蔭石



榎蔭石

弘法大師がこの道を通り高野山まで登る途中、当時の山崎の集落の住しきを見かね、この石の上から薪の種をまきました。

薪の木はアケボノ松、虫に食われることもなく、成長に大変困難がかかることから、薪も少なく木材として大変重宝されており、現在でも薪炭の材料や住宅の柱材に使われているほどです。また、実は、油分を多く含み、食用としても、薪として使えます。

山崎の地はこの薪の木のおかげで大いに栄えたと伝えられています。

本来、この石はより大きなものですが、薪の種をまき、作業道を作るために一部が取り除かれました。

和歌山県

⑦8:33 錢壺石



錢壺石

1265年(文永二年・鎌倉時代)、覚役上人の発願により、20年という長い歳月をかけ町石道が整備されました。整備作業の際、北条時宗の外戚である安達頼盛が、この石の上に置いた壺に給金を入れ、作業員につかみどりをさせて与えたという伝承があります。

銭壺は上部がくびれているため、歌を出してたくさんの銭をつかんでも手がひっかかって取り出すことができません。

そのため、大きな手の者でも、小さな手の者でもつかめる銭の量は差なかったと言われています。

和歌山県

⑧ 9:17 六本杉 町石道を離れ ⑨に向かう



⑨ 9:36 丹生都比売神社



⑩ 10:24 ニツ鳥居 町石道に戻るが、すぐに逸れ駅に向かう



かつらぎ高野山系県立自然公園内
ニツ鳥居 (国の史蹟)

この鳥居は、弘仁10年(819)5月3日弘法大師によって建立された。(紀伊統風土記)

当時は木製であったものを慶安2年(1649)5月補陀洛院受過が私財を以て今の鳥居とした。

高さ1丈7尺(約5.6m) 広さ2間(約4.7m)

かつらぎ町観光協会

⑪ 11:42 上古沢駅 12:18の列車を待つ間にランチ



四月十一日PM

列車、ケーブル、バスと乗り継ぎ、不動坂口女人堂へ



①13:00 不動坂口女人堂



②13:25 弁天岳



③13:48 大門



女人堂道を弁天岳に向かう



重要文化財 大門 指定 昭和40年5月29日

高野山の麓地の西端にあり高野山の西の入口の正門である。重層の五間三戸、入母屋造、銅瓦葺の檜門。昔はここから天野、息尊院に通ずる町石道と西高野御道が紀ノ川流域に向かった。また有田川流域に向かう道もあった。

大門は元禄元年(1688)に築上し、宝永二年(1705)に落慶した。それが今の門である。昭和57.5.9年に解体修理された。自動車道建設の関連とともに高野山の入口として再び活気をとり戻している。



④14:00 助の地藏



⑤14:55 ろくろ峠 小辺路合流



⑦15:23 一乗院 (宿坊)



季節外れの雪



⑥15:04 金剛三昧院



世界遺産
Kinokuni Sanjūin
この多宝塔は、源頼朝、実朝の御霊を供奉するため、西暦1223年(貞応3年)頼朝の妻北条政子により建立されました。現在、高野山に現存する最古の木造建築物で、鎌倉様式を残す数少ない建物のひとつです。

西暦1952年(昭和27年)4月に国宝に指定され、また、西暦2001年(平成13年)7月には、世界文化遺産に登録されています。

和歌山県



精進料理



四月十二日

7:00 朝食



バス、ケーブル、列車
を乗り継ぎ、上古沢駅へ



②10:13 古峠



④11:00 ニツ鳥居でランチ



⑤11:32 白蛇の岩



7:55 一乗院を出発



①9:13上古沢駅より古峠を望む



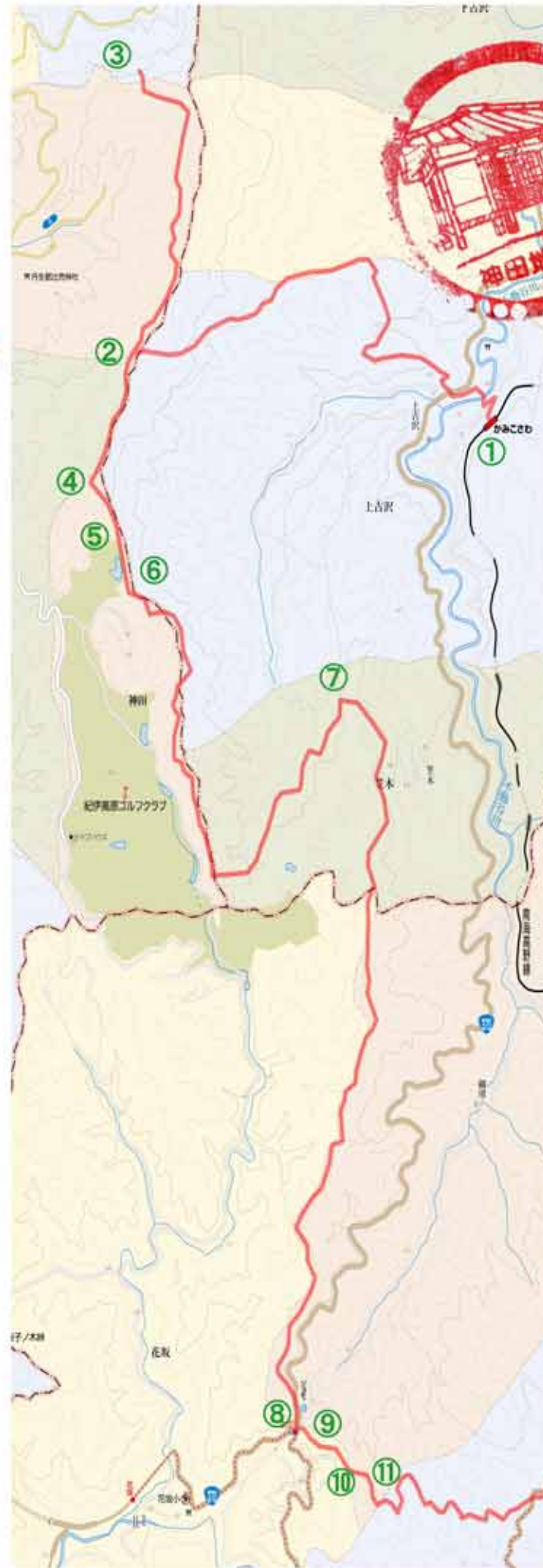
③10:40 六本杉 古峠から
町石道を往復



はくじや いわ とり い
白蛇の岩と鳥居

この鳥居の傍にある大きな岩は、白蛇の岩（毒通岩）といい、この岩の隙間に入り込もうとしていた蛇を、杖でつついて驚かせた者が、丹生郡比安神社からの縁起。この岩の裏を這ると白い大蛇が岩の上の本に巻き付いて自ら焼いていたという伝説があります。昔は自分の非を悔り、丹生郡比安神社でご祈禱をして見ると、大蛇はすでに消えていたといいます。その証しから、この岩には白蛇が潜んでおり、この岩にお参りをして、白蛇の姿を見ると幸せになると言い伝えられています。

相模山脈



⑥11:42 神田地蔵堂



⑧13:15 矢立茶屋でお目当ての「やきもち」を食べ休憩



13:33 出発



⑩13:37 袈裟掛石



⑪13:41 押上石



⑦12:30 笠木峠



⑨13:36 六地藏



けさかけいし
袈裟掛石

弘法大師が袈裟を掛けられたといわれており、この石からは高野山の清浄結界となる。鞍のような形をしていることから「鞍掛石」また、この石の下をくぐれば長生きするとも言われ、伝えられてきたことから、「くぐり石」ともよばれている。

高野町

おしあげいし
押上石

弘法大師の母親が結界を乗り越え入山しようとした時、激しい雷雨が母親を襲い、親孝行の弘法大師はこの大磐石を押し上げ母親を隠したといわれている。

高野町

四月十二日

①14:33 鏡石



鏡石
表面が鏡のように平らな
ことから鏡石と呼ばれ、
この石に向かって真言を
唱えろと心願成就すると
いわれている。
高野町

②15:14 大門



③15:29 最後の町石(1)



④15:32 壇上伽藍・金堂



17:42 夕食



四月十三日

7:10 朝食



⑤7:55 一乗院出発



⑥8:06 壇上加藍 ゆっくり見学



⑦10:10 苜萱堂



⑧10:29 一の橋



⑨10:38 大師腰掛け石



⑩10:44 姿見の井戸 写った



奥の院前バス停近くで昼食



特急こうや8号



高野山の草創

高野山は和歌山県伊都郡の紀ノ川の南方 海拔820メートルの山上にある。東西5キロ南北1キロの平地となり八葉の峰々でかこまれている。今から1150年前、弘法大師は真言密教の修禪の地として朝廷から賜わった。行者は朝に夕に修行し、この身このままで仏になるように努めている。弘法大師は弘仁七年(816)から弟子とともに高野山(金剛峯寺)の建設にかかった。まず西部の小高い台地に壇場をひらき堂塔を建立した。講堂(後の金堂)・地主神の御社・僧坊、教理上の中心としての大塔の建設も企て困難を越えその実現に努力した。壇場の北に中院(現龍光院)があるが弟子真然大徳以後の歴代の山主は、中院に住したといわれ中興 明算大徳の名も知られている。